

第 55 回数理社会学会大会（2013 年 3 月 19 日，東北学院大学）第 1 部会 家族
「自治体の家族政策による出生行動の機会格差の是正」（金井雅之）

当日補足資料

(1) 子ども数の実数（0 人～4 人）を従属変数とした線形回帰分析

	非標準化係数		標準誤差
家族政策	-0.083	***	0.022
世帯所得	0.001	***	0.000
サポート資源	0.081	**	0.031
年齢	0.043	***	0.004
学歴	-0.077	***	0.015
(定数)	0.503		0.365

従属変数は子ども数. $\text{adj.}R^2 = 0.182^{***}$, $N = 1059$.

** < .01, *** < .001.

(2) 1 人目の子どもを設けるかどうかの規定要因の多項ロジスティック回帰

	交互作用なし		交互作用あり			
	係数	標準誤差	係数	標準誤差		
家族政策	0.203	**	0.063	-0.398 *	0.173	
世帯所得	-0.001	***	0.000	-0.001	***	0.000
サポート資源	-0.021		0.089	-0.668	***	0.188
家族政策×サポート資源				0.140	***	0.041
年齢	-0.047	***	0.010	-0.048	***	0.011
学歴	0.106	***	0.029	0.103	*	0.041
(定数)	0.396	***	0.002	3.257	***	0.052
-2LL	1965.04		1960.69			

子ども数 1 人を基準カテゴリーとした多項ロジスティック回帰のうち，子ども数 0 人の係数のみを掲載. $N = 1059$. * < .05, ** < .01, *** < .001.

(3) 2 人目以降の子どもを設けるかどうかの規定要因の多項ロジスティック回帰

	交互作用なし		交互作用あり			
	係数	標準誤差	係数	標準誤差		
家族政策	-0.023		0.065	0.119 *	0.050	
世帯所得	0.000		0.000	0.001 *	0.001	
サポート資源	0.197	*	0.094	0.199	***	0.041
家族政策×世帯所得				-0.000	*	0.000
年齢	0.061	***	0.010	0.061	***	0.010
学歴	-0.085	**	0.031	-0.083	***	0.025
(定数)	-1.171	***	0.002	-1.855	***	0.003
-2LL	1965.04		1963.76			

子ども数 1 人を基準カテゴリーとした多項ロジスティック回帰のうち，子ども数 2 人以上の係数のみを掲載. $N = 1059$. * < .05, ** < .01, *** < .001.